

平成29年度 第1回熊本市立図書館協議会

－ 議事録 －

日時 平成29年7月28日（金）

午後3時30分～

会場 熊本市立図書館 2階 集会室

《出席者》

■熊本市立図書館協議会委員

山中 守 委員 (会長)
吉村 純一 委員
加藤 貴司 委員
原 輝智 委員
吉永 千草 委員
下城 明美 委員
西本 彰文 委員

以上 7人

《欠席者》

小山 昭則 委員

以上 1人

傍聴者 1人

《出席者》

■熊本市側

高守 熊本市立図書館長
橋本 植木図書館長
津村 城南図書館長
黒木 とみあい図書館長
河瀬 プラザ図書館長

(事務局)

- ・池田館長補佐 (熊本市立図書館)
- ・清田主幹兼主査 (")
- ・井手主幹兼主査 (")
- ・成松主幹兼主査 (")
- ・福田主幹兼主査 (")
- ・松里参事 (")

以上 11人

平成 29 年度 第 1 回熊本市立図書館協議会 議事録

1 開会

2 図書館長挨拶

3 委員・職員紹介

4 議事

議題 1 平成 28 年度 事業報告

議題 2 平成 29 年度 事業説明

議題 3 その他

5 閉会

挨拶・委員紹介は省略

【議事】

議題1 平成28年度事業報告

(事務局より説明)

委員 平成28年度の事業報告について、ご意見やご質問はありますか。

委員 貸出者数と貸出冊数は分かりましたが、利用者数は分かりませんか。図書館内にいらっしゃる方等のデータはありませんか。

事務局 図書館ホームページに掲載している「図書館統計」には入館者数を掲載していません。昨年度の特徴として、本館は入場者が増加していますが、その他の館は減少しています。

委員 入館者数は今までデータとして出ていませんでしたか。利用者数も必要だと思います。本だけではなく、利用の実態を見るということで、ご検討いただければ、と思います。
その他はありませんか。

委員 関連して、市立図書館は、何を一番目指しているのかをお聞かせください。貸出冊数を増やすのか等、どこを目指すのかによって、どういうサービスをするのか変わってくると思いますので。
また、限られた予算の中で蔵書を増やしていらっしゃると思いますが、選書の基準についてお聞きします。知人の司書さんから「(選書は)色々調べて、ちょっと変わった本を抽出して選択している」という話を聞いたのですが、熊本市の場合は如何でしょうか。

事務局 まず、図書館の利用は色々な利用形態があります。本を借りるだけでなく、憩いの場、和みの場、雑誌・新聞等を読める場、調査研究のための調べものの場、学習室としての場等々、色々な場を提供しております。市立図書館として目指すところは、多様なニーズに応えていきたいと考えています。
また、本の貸出以外の利用は、入館者数で表しますが、(分館を含む)5館の図書館は入館者数をカウントしていますが、その他の公民館図書室等はカウントしていませんので、ご了承ください。次回から、公民館を除く図書館に関しては、入館者数の数字をお示しします。

事務局 選書につきましては、主に新刊書から選書して購入しています。勿論、基準を設けておりますが、例えばプラザ図書館はビジネスや経済・企業等の本を中心に、公民館図書室は一般のお客様が親しみやすい本や児童書を中心に、など館の特性に応じて選書しています。

委員 統計データについて訊きたいのですが、平成26年、27年の推移に違和感があります。

事務局 平成26年度は、本館が大規模空調工事に伴い半年間閉館していたため、本館が大幅に減少しています。

委員 それを勘案しても、平成27年度の増え方が多すぎではないでしょうか。統計の取り方に誤りがあるのでは？

事務局 平成26年3月に城南図書館が新たにオープンし、利用が増えました。しかし、26年度は本館が閉館中のため、全体で見ると、城南の増加は相殺されております。平成27年度に改めて本館が開館し、増加したものと思われれます。また平成27年度は他館も少しずつ伸びていますが、市立図書館の空調工事完了に伴い、読書環境が整ったことで利用が非常に伸びたと考えます。

委員 昨年度は熊本地震の影響があったと思いますが、市立図書館だけ増加しています。市立図書館の増加の原因は为什么呢。

事務局 県立図書館の休館の影響が一番大きいと考えられます。市立図書館は5日間程度しか休館していないため、地震による影響が比較的少なく、それに加えて、通常県立図書館を利用されていた方が市立図書館に流れて、1万5千人増の要因になったと思われれます。その反動で、今年度は利用者数が少なくなるのでは？と見込まれております。

今後は、欄外に、城南図書館の開館・プラザ図書館や県立図書館の閉館等、統計に影響するような項目は、特記事項として書き添えるようにします。

委員 統計にある一覧の公民館の順番は、開設順ですか、それとも、並びはなにか法則があるのですか。(特に並びに意味が無いのなら) 区ごとの並びにしたら、区ごとの状況が見えてきたり、区の傾向が分かるのではないのでしょうか。

事務局 図書館・室ごとの貸出冊数の資料を付けておりますので、それを加工(並び替え)

すれば、区ごとの統計は可能です。

委員 その場合、人数で表示すると、人口の多い区の図書室が多く利用されることになるので、人口規模に左右されないよう、%で表示して欲しいと思います。

事務局 例えば、人口当たりの貸出冊数（100人あたり貸出冊数〇冊）等の分析を検討していきたいと思います。

委員 選書について話を戻します。蔵書と貸出について、利用率という形で表示されていますが、利用に合わせてであれば、貸出冊数に合わせて購入図書の予算をジャンル別に配分するということになりますね。しかし、先程の話からすると、新刊出版を中心に購入しているという。であれば、（貸出）利用に合わせているとは限らない。公共図書館として、揃えなければならない蔵書もあると思います。購入の優先順位なり、基準や原則があると思うのですが。

事務局 小説はどこの図書館・室も欲しいと考えていますし、絵本は本館がかなり多く持っています。貸出が多い分野は家事・料理の本が多く、購入希望のあった本をかなり購入している状態です。また、複本を減らして、幅広いタイトルを購入するよう予算配分を工夫しているところです。

委員 オブラートに包まれた発言は、ベストセラーや、著作権等の話も絡んでいるのかなと感じました。全国的に問題になっている話（出版業界から図書館へ、ベストセラーを大量購入して貸出しないで欲しいという申出があった件）を言われたのかなと思いました。基準がしっかりあれば、問い合わせがあっても、はっきり答えられると思いました。

事務局 購入基準は設けていますが、資料を携行していないので、正確に説明できませんが。社会科学については出版点数が多いのですが、各館に満遍なく届けられるように配慮しています。レファレンス（調べ物）の本も積極的に収集しているようにしています。館ごとの収集基準としては、

- ① 分館は地域住民の読書活動支援や課題解決に繋がるような資料等の充実を図っています。
- ② プラザ図書館はビジネス支援資料を中心に配置しています。
- ③ 公民館図書室は、地域住民が気軽に立ち寄れる利便性を活かし、利用頻度の高い資料を中心に収集し、読書習慣に繋がるように人気のもの等を収集しています。

委員 各館ごとに違う基準で収集しているということですね。そこは理解しますが、蔵書数と貸出冊数のバランスから考えると、住民のニーズに合わせていくことも必要と思うので、基準にそういったことも含めていかれては如何でしょう。

委員 ニーズと基準に照らして購入しているということは、了承しました。

委員 貸出冊数のデータや区ごとのデータなど、それぞれリンクした話だと思います。そういう基準やデータを見ながら、選書をシステム化していくことに有効活用できるかな、と思いました。

事務局 区の特性に合わせたニーズを分析しながら、ニーズに合った蔵書構成を考えたいと思います。

委員 一つそういうデータを作っておくと、こういう会議資料にも使えるし、日常業務にも使えると思いますよ。

委員 購入の話が出たので、学校の現状をお伝えしたいと思います。

「本を読む子の学力は高い」と言われておりますしデータもありますが、出版社の方と話した際「熊本は低い」と言われました。低いのは、学校の図書購入予算です。確か平均で、福岡は100万くらい、熊本は20万くらいと記憶しています。現状では、学校の蔵書はなかなか増えず、古い本ばかりです。だからこそお願いになります。図書館に是非子どもの本を充実して欲しいと考えます。特に、これから調べ学習などもあります。ニーズだけにとらわれず、子どものことも考慮して選書をお願いします。

議題2 平成29年度事業説明

(事務局より説明)

委員 先程、館内で配架ボランティアらしい方を見かけました。仕組みを簡単に教えてください。どんな風に募集してどんな勤務形態で従事していらっしゃるか。

事務局 図書館ホームページで募集し、年度ごとの申請という形で登録しています。勤務体系は月曜以外の開館日・開館時間の中で、希望の時間に、都合が良い時間だけ活動してもらっています。高校生以下は保護者の同意を必要としています。活動は無給で、配架や簡単な本の修理をしていただいています。

委員 予算が減っている原因は。上から減った状態でおりにてきているのですか。

事務局 予算シーリング等で、ある程度の枠組みで予算を組むことになっています。特に前年度の熊本地震で、地震被害の復旧に必要な費用が生じ、ここ数年は熊本市全体で「みんなで辛抱していく」方針になっています。事務事業を再構築して見直し等を行い、自分達で出来ることは自分達でするように工夫して今回の予算となっています。

委員 その中でも図書資料費を確保しようとしているんですね。

委員 今の話だと、平成31年以降は、増える可能性があると聞こえますが。

事務局 平成31年度は元に戻る予定の前提で、一律縮減していると認識しています。

委員 図書館だけが割りを食うのではないかと心配しました。読書する子は学力が高いというデータがあるのに、学校図書館は本が少なく古いのが現状です。平成31年度以降に学校にも本が増えて欲しいと思います。図書館は生涯学習の場なので、あまり予算を減らして欲しくないです。

委員 (図書館の予算の中でも) 子ども読書活動費が大きく減っているので、平成31年度以降、是非戻していただきたいですね。子ども達を本に親しむように育てないと、大人になって急に本に親しむことは少ないと思いますので。中高生になるに従い、どんどん本を読まなくなっています。幼稚園、小学校など低年齢の子ども達の読書活動を、工夫して盛り上げていきたいと考えています。図書館も読書感想文の募集を中止されたので、代わりになにか出来たらいいと考えています。以上、お願いでした。

もう一つ。学校では保護者による朝の読書活動や読み聞かせが盛んです。とても有難いことです。しかし、どのようにしていいか分からない方が多いのも事実です。アニメーションを取り入れていらっしゃっても、独自の解釈で行っているため、ただのゲームになっていることもあります。子どもに対してだけでなく、学校ボランティアやPTAの養成にも力を入れて欲しいと考えます。

※アニメーションとは余暇の文化活動を表す言葉で、日本では主に読書に親しみ、楽しみながら読む力を養う読書支援活動をいう

委員 城南図書館はビブリオバトルとブックトークの両方を行っていますが、基本的には

似たようなものですか。

事務局 まったく別の物です。ブックトークは、司書がお薦めする本を紹介するものです。ビブリオバトルは、読者が紹介したい本についてと5分程度発表するもので、数人で発表を行い、その中から聴衆が読みたい本を投票してチャンプ本を選びます。発表者はプレゼン力がアップするし、聞く人は聞く力を養います。ビブリオバトルはいろんな年代を対象にしたいと考えていますが、城南図書館は、まず小学生を対象に企画しています。「ビブリオバトル」という言葉を定着させていきたいと考えています。

委員 関連して、市のPTAとして、各学校に読書を薦める市Pプランをしています。ビブリオバトルをする学校もあります。そういう活動を、図書館の支援も受けながら進めていけたらいいと考えています。
私の考えでは、今の子どもは本を読むと思っています。逆に、大人が本を読まないという認識を持っていて、大人が本を読めば子どもが本を読むと思っています。是非そこを切り込んでいただきたいと思います。

事務局 以前、中学校にビブリオバトルの実演をしに行ったことがあります。

委員 大学は、ラーニングコモンズといって、学びの場としての図書館が少しずつ定着していますが、公共図書館は「静かに」利用するのがメインなので、モードの切り替えが出来るといいかなあと思います。

委員 (大学の例があるように) 図書館の役割がだいぶ変わってきています。公立図書館はまだカタイ印象があります。それは設備の問題だと思います。最近の図書館は飲食できて賑やかです。でも、それは飲食したり話をしたりするスペースを確保しているから可能なのです。普通の公立図書館は飲食できない設備が殆どなので、(設備が無い状態で) 飲食をどうするか論議しても意味はないです。
2階に学習室ありますが、肩がこりますね。県立図書館の自習コーナーも同じです。同じ学習スペースであっても、アクティブラーニングであれば、友達と話しながら色々学習して、そこに本がある、という空間です。これからこういう学習方法が主流になっていくと思います。次の時代を考えて、どのようにスペースを作っていくかを考えていくべきだと考えます。設備と運営の考え方の両輪が必要ということです。
私は個人的には、図書館は目的がなくて(来館して) もいいと思います。涼みに来てもいいし、散歩のついでに新聞や雑誌を読むというのでもいいし、新聞を広げ

て寝てもいいと思います。そこで、何か気付きに出会うかもしれない。「勉学と調査研究のだけ場」と考えるのは、昔の図書館像だと思います。

議題3 その他

特になし

終了